

『三里塚・ジェット』と『35万人体制』を軸に 闘う方針を確立!



79.12.14
No. 299

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八〇九・公衆電話(22)七二〇七

おる回定期大会

白熱した討論のうちに
成功裡にかちとらる!

動労千葉第三回定期大会、第二日目(一二月一二日)は、冒頭より「運動方針」をめぐる活発な討論で開始された。どの発言者も、この八ヶ月間を一心同体となつて汗みどろで闘いぬいてきた自信と確信にみちており、激動の八〇年に荒波をけたてて突進していく気迫にみちみちたものであった。大会は満場の拍手で運動方針(案)を承認し、ここに八〇年代日本労働運動の戦闘的再建をかけた「国鉄三五万人体制粉碎と結合した三里塚・ジェット闘争」勝利へむけた確固たる基本路線と闘争体制をうちたてたのである。

提起された「運動の基調」は、

- (一)、われわれは八ヶ月間の激闘に勝利した。この偉大な教訓を足場に、いかなる弾圧攻撃にもゆるぎない、「八〇年代に通用する自前の労働組合」をつくるため、更なる飛躍をかけて奮闘していく。
- (二)、今日の右翼的労働戦線統一問題、総評労働運動の分解・変質の危機に対決し、動労大改革への闘いを強化し、全ゆる困難をのりこえて分離し自立してでも真に闘わんとしている全国全産別の戦闘的拠点と糾合していくための取り組みを展開していく。
- (三)、八〇年代日本階級闘争の天王山としての三里塚闘争の勝敗は、三里塚農民の生命と生活をかけた決戦であると同時に、労働運動はじめ全国の住民運動に決定的な影響を及ぼすものである。我々は労働連帯を一層強め、「反合としっかり」と結合した三里塚ジェット闘争」の路線を明確にして闘いを強化する。
- (四)、「三五万人体制」攻撃は、徹底した労働強化と民間委託化、それを通しての国鉄労働運動の完全な変質・解体を狙った恐るべき攻撃である。国労・動労「中央」の裏切りをうち破って、「55・3」を軸にすえて何としても全国全線ストを実現し、80春闘と結合した前進を勝ちとっていく。その先制的攻撃的な闘いとして、年末から来春にかけての「処分粉碎」「新採大巾獲得」「運転保安」の闘いを重点として、強力な第三波闘争を準備していく。

というものである。

討論の中で出された主なものは、

- ①、総評運動は崩壊の一途だが、しかし職場の労働者の中には危機感と戦闘力は残っている。三里塚・ジェット闘争はそれを証明した。(成田)
- ②、「三五万人攻撃」はすでに開始されている。白紙撤回をせまる闘いを来春にむけてつみ上げよ

う。(新小岩)

- ③、民託問題は、単なる仕事量の削減にとどまらず、労働運動の変質という内実を見る必要がある。
- ④、このすさまじい合理化を打ち破る以外にわれわれの生きる道はない。運転保安闘争をもっと強化してこちらから敵を攻めていくような闘いが必要だ。(勝浦)

関連する質疑・発言として

- ①、久留里線(ローカル)に対する当局方針について。(木更津)
- ②、停年延長に見合う職場確保の強化について。(千葉転) 五八才延長者はどう対応するのか。(館山)
- ③、80春闘・賃上げ闘争の展望と取り組みについて。(勝浦)
- ④、裏切り分子糾弾闘争の現状について。(津田沼)
- ⑤、12・1総評青年協集会への参加と、革マルの「生卵事件」について。(成田・青年部) などであった。

準備支部館山も勢ぞろいで、
「八〇年へ、ガンバロー！」

ついで、大会は「予算」について質疑・討論ののち採択し、委員・各種委員の選出を経て、大会宣言が確認された。田村(新小岩)会計監査員の解任あいさつを拍手でこたえ、議長団解任あいさつ、閉会のことば、組合歌合唱、最後に大会を立派に支えた館山支部の準備委員も壇上に勢ぞろいし、関川委員長の音頭で、力いっぱい団結ガンバローを三唱して、一四時四〇分拍手の中で第三回定期大会は成功裡に終了した。